

症例の概要

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用										
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置										
1	男 60代	アスペルギ ローマ (季節性ア レルギー)	注射剤 400mg 2日間 ↓ 注射剤 200mg 12日間 ↓ カプセル 200mg 9日間	<p>急性肺障害 非定型マイコバクテリア感染の既往歴あり。</p> <p>投与開始日 アスペルギローマに対し本剤（注射剤）400mg/日にて点滴 静注開始。</p> <p>投与3日目 本剤（注射剤）200mg/日へ減量。</p> <p>投与15日目 本剤（カプセル剤）200mg/日に切り替え。</p> <p>投与23日目 急性肺障害が発現。呼吸困難，倦怠感を訴え来院。 (発現日/ 投与中止日) SpO₂: 91% (ルームエアー), CRP: 16.1 左肺にスリガラス様陰影を認めたため入院。パニペネム・ベ タミブロン点滴開始。胸部CTでも左肺全体にわたるスリガ ラス陰影を認める。</p> <p>中止4日後 入院時より38℃台の発熱が続き，SpO₂ 91%から5LのO₂吸入 にて94%で経過。胸部X-P, CRP共に改善が見られないため パニペネム・ベタミブロン点滴からメチルプレドニゾロンコ ハク酸エステルナトリウム点滴に変更。</p> <p>中止6日後 発熱はおさまるがSpO₂ 83%からオキシマイザー5L吸入にて 94%で経過。CRP 8.0まで下がるも胸部X-Pは改善が見られず。 メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム点滴から プレドニゾロンコハク酸エステルナトリウムの点滴に変更。</p> <p>中止8日後 胸部X-P改善し，CRP: 2.7。</p> <p>中止11日後 胸部X-P上，陰影ほぼ消失。CRP: 1.7 SpO₂ 95%から99% (O₂ 1Lカニユラにて) で経過。</p> <p>中止14日後 プレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム点滴から内服に 変更。</p> <p>中止15日後 CRP: 0.1, SpO₂ 95%から99% (ルームエアーにて) で経過。 急性肺障害回復。</p>										
臨床検査値														
臨床検査	投与 2日前	投与 1日前	投与 開始日	投与 6日目	投与 7日目	投与 13日目	投与 15日目	投与 16日目	投与23日目 (発現日/ 投与中止日)	中止 4日後	中止 6日後	中止 8日後	中止 11日後	中止 15日後
Temp (℃)	-	36.9	36.4	-	36.5	36.5	36.4	36.4	37.4	-	-	-	-	-
WBC (/μL)	5,060	-	-	3,650	-	4,870	-	-	7,010	6,460	-	-	-	-
CRP (mg/dL)	-	-	-	-	-	-	-	-	16.1	-	8.0	2.7	1.7	0.1
併用薬：カルボシステイン，デキストロメトルフアン臭化水素酸塩水和物，レバミピド，桜皮エキス・コデ インリン酸塩水和物														

症例の概要

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置
2	男 60代	気管支肺アスペルギルス症 (肺気腫, 慢性閉塞性 肺疾患)	800mg 23日間	<p>薬剤性肺障害 アレルギー歴：無 原疾患，有害事象に関連する家族歴：無 本剤投与開始前に使用した薬剤の有害事象歴：無 喫煙歴：有（40本/日）</p> <p>投与2日前 X線にて原疾患（気管支肺アスペルギルス症）の所見のみ。 投与開始日 気管支肺アスペルギルス症に対し本剤（内用液）400mgを1日2回の投与開始。</p> <p>日付不明 嚥下はできているが，服用時違和感あり。 投与2日目 患者が食欲不振を訴えたが，本剤での治療を継続。味覚に敏感で，オレンジジュースと混ぜたりしたが，苦味を強く訴えていた。</p> <p>投与22日目 徐々に肺の画像所見悪化。吸入酸素2Lから4Lに増量。 (発現日) 薬剤性肺障害発現。 薬剤性肺障害の臨床症状：咳嗽，胸水増悪，酸素必要量増加</p> <p>投与23日目 レントゲンから影が多発的に広がり，本剤による薬剤性肺障害を疑い，本剤投与中止。 (投与中止日) 胸部X線異常所見：分布（両側性），陰影（浸潤影） 体温：38.1℃，WBC：6,170，CRP：4.8，SP-D：9.5</p> <p>中止6日後 画像検査実施。CTにおいても多発的な広がりがみられたが，自覚症状は改善傾向。 CT異常所見：分布（多発性），陰影（浸潤影，スリガラス影） 画像検査にて肺障害は少し回復し，吸入酸素の投与量も徐々に減っている。</p> <p>中止7日後 苦味，食欲不振が回復 中止41日後 画像でも回復を確認。体温：36.7℃ 薬剤性肺障害の回復 本剤再投与：無</p>

臨床検査値

臨床検査	投与 2日前	投与 13日目	投与 16日目	投与22日目 (発現日)	投与23日目 (投与中止日)	中止 11日後	中止 41日後
CRP (mg/dL)	-	2.5	2.8	-	4.8	2.8	-
WBC (/μL)	-	5,410	5,540	-	6,170	8,460	-
Temp (℃)	37.0	-	-	37.2	38.1	-	36.7
SP-D (ng/mL)	-	-	-	-	9.5	-	-

併用薬：トラセミド，インダカテロールマレイン酸塩，カルボシステイン，カスポファンギン酢酸塩

本剤（内用液）の承認された用法・用量は，1日20mL（イトラコナゾールとして200mg）であり，1回量の最大は20mL，1日量の最大は40mLです。